JIM-NET便り

2012年11月20日（火）

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303 ☎03-6228-0746

写真：
チョコを食べるヌールちゃん

NEWS

特集：チョコ募金が始まります！ .....P.1～3
【アルビル感染症対策プロジェクト報告】
ナナカリ病院で感染症対策講座を開催.....P.4
ある患者さんの家族の風景（2）
からからイラクの道を Gちゃんのお家へ.....P.5
福島プロジェクト報告.....P.6
チョコ募金の準備、着々と進んでます！.....P.7
【イベント報告】
アルビル国際マラソンに参加しました！.....P.7
鎌田代表のつぶやき..... P.8
現地新スタッフよりご挨拶.....P.8
局長くん連載終了のお知らせ..... P.8

お知らせ
クレジットカードでのご寄付も受け付けております。
インターネットをお使いの方はぜひお試しください！
http://jim-net.net/supporters/#donation

チョコ募金が始まります！

今年のテーマは、「あしたのチョコレート」
その名もズバリ、チョコを食べながら「あした」を考えようというわけです。

福島では、昨年の震災後、原発事故も収束せず、除染の効果も期待したほどではなく、子どもたちをどう放射能から守るのかが大きな課題になっています。一方で、政府は脱原発という方針を打ち出しながらも、大飯原発の再稼働が実施され、大間原発の工事が再開されるなど、「命より経済？」に流れていくのか懸念されています。

そしてイラクに目を向けると、日本は、国益（日本の経済）のために、つまりは石油の確保のために、アメリカの「イラク攻撃」を支持。来年で戦争から10年がたちますが、ようやくイラクの石油が日本の市場にも入り始めました。しかし、イラク市民は、治安の悪化や停電に苦しみ続けています。劣化ウラン弾の放射能汚染に関しても、測定もほとんどされずに、除染の除の字も見られません。がんになっても、病院の医療体制は不十分で死んでいく子どもたち。この現状に、日本は大きな責任をもたないといけません。

しかし、自分たちは、放射能はいやだから原発やめるけど、儲かるなら海外に売っちゃえ。原発を止めたら、当面は火力に頼るわけで、じゃあ、戦争して、エネルギーを奪い取ればいいじゃない。どうせ、戦争はアメリカがやってくれるからみたいな、「悪」の方向へ向かっているような気がします。

＊＊＊＊＊

おっと、そんなに、悲観的に考えなくても、人間、もっと良心的なんじゃない？

あしたは、きっと明るいよ、そう思うためには、もうちょっと、しっかりと現状を見て考えないといけません。というわけで、今年のチョコ、「もうチョコと」をデザインしました。

今年の新作チョコ

●チョコデザイン秘話

毎年、JIM-NETのチョコレートを楽しみにしている人たちがいる。だからデザインを考えるのはとっても楽しい仕事。でも、昨年の震災は、さすがに堪えた。日本が大変なのにイラクの子どもたちを支援するのか？一体どんなデザインにするの？思い悩んでいるときに、日本の支援で白血病が治ったハウラちゃんが、「赤い花の絵をたくさんかいて、日本を元気にしたい」というメッセージをくれた。ハウラちゃんの絵は、岡田将生と、北川景子の今を時めく黄金コンビ主演映画「瞬」にも使われるぐらい素晴らしい。

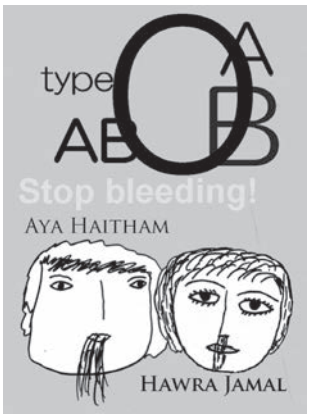
もう、難しいことは何も考えずに、ハウラをアルビルに呼んで、ホテルにこもりっきりで、花の絵をたくさんかいてもらった。

「昨年の鼻血の絵は人にあげられないけど、今年のはかわいい」と多くの人たちから評判が良かったし、福島とイラクの子どもたちの命がつながったと思った。

2012年チョコ募金のパッケージ

一昨年は、カバーに鼻血を出している子どもの絵をつかった。バレンタインに鼻血？がんで苦しんでいる子どもの鼻血って不謹慎って言われるの覚悟の上だ。

2010年の夏、がんのサバイバーで絵がうまい子どもが集まって、皆でチョコのデザインを作ろうというサマーキャンプを行った。サバイバーの子どもたちが、鼻血を出している自画像を描いて自己紹介する。あの時は大変だったけど、今はこんなに元気になった。苦しいけどきちんと治療を続けて！というメッセージを参加している闘病中の子どもや両親に伝えて励ました。しかし、参加予定だった絵のうまい白血病のアーシアちゃんが、鼻血が止まらなくなって、参加できずに死んでしまった。輸血がきちんとできるようにしようと支援を呼びかけた。しかし、チョコが完成する前に、鼻血の絵をかいてくれた子どもの一人アヤ・ハイサムちゃんも死んでしまった。かわいくて(イラクの子の絵）＋おいしい（六花亭）だけじゃない。不条理な現実がある。それを伝えるのがJIM-NETだ。



2011年チョコ募金のカード

＊＊＊＊＊

しかし、昨年は、日本中が癒されたかったのだ。私自身も癒されたかったのだろう。今年はどんなデザインにするか。「鼻血のようなきついのはやめてください」「かわいくてきれいなものにしてください」「政治的なメッセージはやめてください」「子どもたちが死んでいくというのも」と言われているようなプレッシャーを感じていた。

●放射線が役に立つ

今年のメインとして選んだのがバスラのヌールちゃん。9歳。ホジキンリンパ腫でイラクで手術した後化学療法を続けているが、放射線治療が必要だという。バスラでは放射線治療を受ける病院がほとんどなく、バグダッドはいつも満員で、むしろ、国境を越えてイランに連れて行く方が近い。一人あたり50万円ほどかかるが、JIM-NETでは毎年5-7名の患者を支援してきた。昨年6月、震災支援で手いっぱいだったが、皆様の支援のおかげで、イランに連れて行って放射線治療を受けさせることができた。核兵器の開発疑惑で、たたかれているイランであるが、放射能を使って国際貢献している事実も知ってほしい。

放射線治療を受けるヌールちゃん

約一か月イランで治療を受けたが、その後の治療も順調だ。イランで暇つぶしに描いた絵が面白く、多くの人に希望をあたえるだろう。何点かを組み合わせてデザインした。

妹と弟と
アヤちゃん
（写真中央）

自宅で闘病中のアヤちゃん

●死んだ子どもの残したものは

たまたまイラクに持って行ったフラッシュメモリーの中に、アヤ・ハイサムの絵が入っていたのだ。変電所の前で嬉しそうに手をつないでいる3人の女の子。イラクでは停電がしょっちゅう。夏は50℃を超えるから厳しい。電気が来て喜んでいるのだろう。

アヤちゃんは、8才で、ウィルムス腫瘍になる。しかし、誤診のため治療が手遅れになって死んでしまった。私は、今年5月、バグダッドのアヤちゃんの家を訪ねた。街中には、コンクリートの壁が続き、ところどころに軍隊や警察のチェックポイントが設けられて、さながら戦時下だ。インフラの整備もされていなく、これが首都なのかと疑う。

質素な家に、お父さん、お母さんと3人の子どもが暮らしている。栄養状態がわるいのか、アヤの妹はがりがりに痩せていた。アヤもがりがりだったけど。お父さんの収入は、タクシーのドライバーで安定せず、娘を病院に連れて行くとその日は、仕事ができない。病院から薬をまとめてもらってきて家で自ら点滴していた。アヤちゃんは、誕生日会の絵を好んで描いていた。お母さんによると、「生まれてから一回ぐらいしかきちんと誕生日会してあげられなかったから」と悔やむ。

2009年にもアヤの絵をチョコレートに使った。お母さんは大切にチョコレートのパッケージを保管していた。アヤちゃんがなくなる直前に書いていたスケッチブックも見せてもらった。サマーキャンプでいった滝でみんなで遊んでいる絵。そして三輪車に乗っている子どもの絵。アヤちゃんに、私の一歳の息子が三輪車に乗っている写真を見せたのだった。家に帰って、私のために書いてくれたのだ。「bye-bye-Maki」と添えてあった。これが最後の絵になってしまったのだ。

アヤの絵を使わなきゃ。

少女の死と向き合い、脱原発をイラクから考えてみた。もっと太陽エネルギーをつかえばいい。もっと緑があれば、原発に頼らずにCO_2の問題だって解決できる。ちょっと自転車に乗って通勤するような工夫があれば、エネルギーは節約できる。そして、やっぱり戦争はだめだということ。

おいしくて＋かわいいチョコにおもっ苦しい現実を乗っけてしまった。そういうチョコがこの世に受け入れられるのか。そこが問われている。ぜひ、チョコを食べて、「あした」を一緒に作ってください。

引き続きご支援よろしくお願いします。

今回のカードに、アヤちゃんが描いてくれた三輪車の絵

【アルビル感染症対策プロジェクト報告】

ナナカリ病院で感染症対策講座を開催

望田優子（JIM-NETアルビル駐在スタッフ）

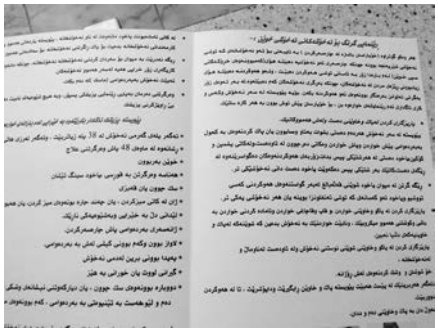
9月からイラク・アルビル事務所に赴任しました望田優子です。よろしくお願いします。アルビルに到着した直後にサッカーW杯アジア最終予選の日本対イラク戦があり、ナナカリ病院のスタッフ、治療を受けている子どもたちと一緒に試合中継を観戦し、楽しい時間を過ごすことができました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

現在、アルビルにあるナナカリ病院では院内感染症対策プロジェクトが進められています。小児ガン・白血病の子どもたちにとって感染症対策は最も大切なことの一つです。治療で免疫力が下がっている体に対して、細菌から身を守る必要があります。しかし、ここナナカリ病院では感染症対策が不十分な点が多く、治療中の子どもたちが感染症に罹ってしまうのを防ぐために、取り組むべき課題がまだまだたくさんあるのが現状です。

またナナカリ病院に通院・入院する子どもたちの家族に話を聞いてみると、小児ガンや白血病がどんな病気なのか分からないまま治療を受けており、なぜ免疫力が下がるのか、なぜこんなに具合が悪くなるのか分からないという声も聞かれます。子どもたちの感染症対策を進める上で、家族に感染症対策の意識をもってもらうことはとても大切です。

そこで今回JIM-NETでは、患者家族に感染症予防の大切さを理解してもらうために、ナナカリ病院の医師・看護師と相談の上、感染症対策のためのリーフレットを作成しました。このリーフレットを使いながら、9月から院内で患者家族向けの感染症対策講座を実施しています。ナナカリ病院医師の、「外国人が説明した方が、患者家族は真剣に聞くだろう」とのアドバイスから、まずJIM-NETスタッフが英語で説明し、ローカルスタッフがクルド語に訳すという形式で行っています。第一回目の講座の参加者は20名程で、質疑応答の時間も合わせて約1時間というものでした。赴任して間もないこともあり、患者家族の前で話すことに緊張しましたが、「院内ではマスクをつけるようにして下さい」と言ったその場でマスクをつけてくれるなど、皆真剣に耳を傾けてくれていました。さらに講座の最後に、白血病（小児）は治療をきちんと行えば治る病気だということも伝え、そのためにも感染症対策に取り組む必要性を訴えるようにしています。



クルド語で書かれた感染症対策リーフレット

写真右：
感染症対策の説明に真剣に聞き入る患者の家族

写真左：
講座終了後、医師に相談する家族

講座が終わった後に、患者家族と医師が話し合える時間を作り、病気に関する知識や治療に対する相談ができる場を設けています。日頃、医師からは「患者家族が言うことを聞いてくれない」、患者家族からは「医師からの説明がよく分からない」という声を聞くことがあったので、今後もこういった時間をできるだけ作っていこうと考えています。

まだまだ言葉の問題もあり、患者家族とコミュニケーションを取ることは大変ですが、ローカルスタッフであるシーラン、ナナカリ病院の医師・看護師と協力し、感染症対策に取り組んでいきたいと思います。

患者の子どもたちやローカルスタッフとサッカー観戦

ある患者さんの家族の風景（2）
からからイラクの道を Gちゃんのお家へ

赤尾和美（アンコール小児病院看護師）

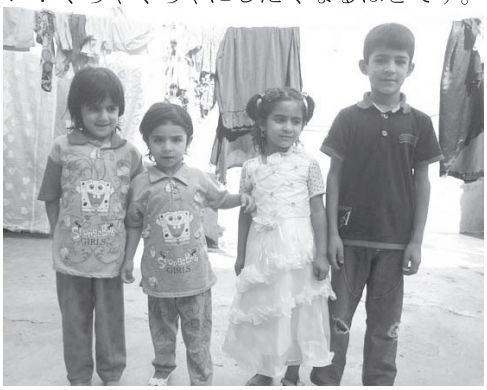
前回ご報告したファーディアちゃんのお家はアルビルから北へ約150キロでしたが、今回は南西に約200キロ。Gちゃんのおうちを訪ねました。

地球上には色んなところがあるものですね。こんな真っ白な土を採掘しているところがありました。そこで働くおじさん（？？若いのかな？）も重装備で、頑張っていました。

気温は50℃ちかくあり、とにかく乾燥しているので、風が「あちっ！」っと体に突き刺さる感じです。これ、初めての感触で、「気持ちがいい～！」。カラカラでまっ平な土地もすごいです！乾燥ひまわりも発見！こんな土地柄で生活する患者さんは、一体どんな生活をしているのかしら？？とかなり興味がわきました。

＊＊＊＊＊＊

おめかしして迎えてくれたGちゃんは6歳で急性リンパ性白血病です。4人兄妹の2番目（下の写真：左から3番目、白いドレスの女の子）ですが、4歳と3歳の妹ちゃんの方が大きいくらいです。でも、みんなかわいい！くちゃくちゃにしたくなるほどです。



2年4ヶ月前に発症し、最後に入院をしたのは1年前になります。今は、週に数回通院をしながら、自宅でこんなにたくさんのお薬を飲んでいます。お薬でお腹がいっぱいになってしまい、ご飯をあまり食べられないのだそうです。確かに小さなGちゃんにこの量のお薬は大変だ。そして、交通費も馬鹿になりませんよね。

Gちゃんのママに、白血病の診断を受けたときのお話を伺いました。症状は足の痛みから始まりました。ママは、毎日マッサージをしてあげていましたが回復せず、ある病院へ連れて行きました。その時に白血病の診断を受けたのですが、その意味が分からず、何度も医師へ尋ねたそうです。すると、その医師は、いきなり怒り出し「これ以上質問するな！（Gちゃんは、）癌なんだ！」と強い口調で言ったのだそうです。・・・ひどいな・・。ママは、「辛くて、胸が痛くて・・・」と、涙を流しながら話してくれました。さぞかし、辛かったろうな・・・。その傷はいまだに癒えず心に残ってしまっているのですね。辛いことを思い出させてしまって、ごめんなさい。言葉が通じないので、癒しの言葉をかけようもない・・・悔しい・・・。

Gちゃんパパは、ドライバーさんです。月の収入は、$600で、通院やお薬に大半が使われてしまいます。それでも、「きれいなものが大好きなGちゃんのために出来る限りのことはしたいんだ。」と言っていました。きれいなお洋服をきたり、きれいな髪飾りをつけたりすると、とってもうれしそうにするそうです。この日もかわいらしいお洋服を着せてもらい、とっても嬉しそうでした。ただ、他の兄妹との差は出来るだけつけないようにしているとも言っていました。子どもへの愛情がたっぷりですね。そしてママは自慢のお裁縫で家計を助けています。パパとママの掛け合いは、なかなかかわいらしくて、ほのぼのしていました。

Gちゃんのパパとママ

Gちゃん家族みんなで病気に立ち向かっていることがよーく分かりました。「頑張れ～！」って思いながら、私の方がやっぱり力をもらいました。

～ 赤尾看護師のご紹介 ～

赤尾看護師は、NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーに所属し、現在カンボジアで活躍する看護師です。昨年11月よりJIM-NETのアルビルプロジェクトに参画していただいてます。

福島プロジェクト報告

小松真理子（JIM-NET福島プロジェクト担当）

福島よりこんにちは！今回は、JIM-NET福島プロジェクトが今年4月から実施している「放射能リテラシー向上プロジェクト」について、市民による食品放射能測定所の役割と、プロジェクトでの取り組みをご紹介したいと思います。

本プロジェクトは、日本ルーテル教団提供の活動費で1年に亘って計画を組んでいます。原発事故が起こったのち、みなさんもご存じでいらっしゃるように放射能についての情報は二転三転しました。結局は、「安全」「安心」という命と毎日の生活に関わる判断を、人任せにせず自身で行うしかない、という挑戦の極みだと感じられます。ただ、その判断をするための、数値を科学的に提供するのが、測定所の第1の役割です。さらにいえば、その解析を行政や研究機関におまかせとしてしまうのではなく、一般の市民が、自分たちの手で明らかにしようと乗り出したところに、市民による測定所の芯の強さがあります。昨年の混乱の中、毎日生産・流通・消費される膨大な数の食品の検査体制はなかなか整わず、ゆえに県内に30か所以上もの一般市民による放射能測定所が開設されることになったのです。測定機1台は安価でも100万円前後ですが、仲間たちでカンパを募ったり、県外・国外からの支援で導入されました。市民による測定所のこの数と速さは、チェルノブイリ事故の時との大きな違いだといえるでしょう。現在、この市民による放射能測定所設立のうごきは全国に広がっていますので、お住まいの市町村にも開設されているかもしれません。

さて、JIM-NETが一戸一戸、福島県内の市民による測定所訪問を始めたのは2012年4月、ちょうど発災から1年が過ぎ、食品の出荷基準値が500Bq/kgから100Bq/kgに変わった直後でしたが、中には「昨年11月に注文したのに、測定機がまだ来なくて…」と言われる準備段階のところもありました。受注生産の測定機が、ようやくそこに到着したのは5月末。ちょうどそのころ、行政も大量の測定器を各市町村に配布し、測定文化が広く流布したかのように見えました。

当初、本プロジェクトの活動でイメージしていたのは、測定に必要な放射能に関する基礎・専門知識を伝えるために、一斉勉強会を何度か行い、それぞれの測定所にアドバイザーとなる相談口を確保することでした。しかし実際にはじめてみると、皆さんのモチベイションの高さもあり、放射能についての知識や測定機の操作についての情報はあっというまに獲得されてしまいました。そこで、寄せられた要望が、「それぞれの測定所の運営に関しての悩みを相談したい」という声でした。そこで現在は定期的に地域の測定所が集まって情報共有をする座談会を設けています。

あぶくま茶屋放射線測定所開所式の様子

測定したデータをどう解釈するのか、「基準値以下」「検出限界以下」とはどういう意味か？食べたらどうなるのか？どうすれば放射能を減らすことができるのか？単純なようですが、分かりやすい伝え方も難しく、繊細なトピックです。測定所の第2の役割は、その地域の中で、「放射能のこと」についていつでも質問や相談できる場所である、ということです。

時間が経つにつれ、市場での調査体制も整ってきたことへの安心感や面倒くささから、放射能測定についての意識が薄れがちになっていきますが、皆に必要性をしっかり伝えていくために、測定所は方法を模索しています。次回はその取り組みについてお伝えします。

●フランス便り

9月、フランスで2つある市民放射能測定所のうちの一つ、A.C.R.O（アクロ）を訪問してきました。フランス・ノルマンディ地方の街、カーン。おりしも滞在中に、GMO（遺伝子操作農作物）を与え続けたネズミの健康被害についての研究発表があったのですが、この研究をおこなったカーン大学のお膝元です。測定所は、街の中心部から少し離れた住宅地の中で、自動車修理工場と敷地をシェアしています。

放射性物理学者でアクロ勤続20年のミレーヌさんが、とてもていねいに測定設備を案内してくださいました。現在5人の俸給スタッフと、多くのボランティアで運営をされているそうです。

アクロが設立されたのはチェルノブイリ事故が起こった1986年。それから26年にわたって、放射能測定を続けています。フランス当局が国内の放射能汚染はないと発表していた当時は、やはりなかなか理解を得られなかったそうですが、実直に測定と公表を続けた結果、10年経ったころから行政からも測定依頼を受けるほどに信頼を得るようになったとか。今は、継続的な環境影響調査のほかに、国内外から持ち込まれるさまざまな調査依頼をこなすことで、経済的にも独立・中立的な組織として運営を続けているそうです。

訪問時には、地下水汚染をはじめとする放射能漏れが確実なラ・アーグ再処理工場のちかくで採れたシャンパン用のぶどうジュースや、原発排水口ちかくの昆布、韓国から送られてきた粉ミルクや、日本からの尿や砂が検体としてありました。

この日は偶然にもアクロの理事会の日。一般にも開かれているからと、夜9時から始まった会合に同席させていただきました。代表のデイヴィッドさんが過去京都に留学、また日本人女性と結婚されていることもあり、アクロは東日本大震災発災前から日本とのつながりを持っていましたが、福島原発事故後も熱心に緊密な支援を行ってきました。日本のための募金は4000ユーロを超え、これまでの様々な計測支援に加えて、この秋には東京郊外に他団体と協働して測定所を開設するそうです。理事会では福島の状況について、たくさんの質問をいただき、JIM-NETの活動を含めてお伝えしました。

その他にも議題はたくさんあって、金曜の夜会議は真夜中をこえて続きびっくり。こんな風に会員たちが話し合って、26年の歳月を重ねてこられたのだなあと感じ入りました。

チョコ募金の準備、着々と進んでます！

齊藤 信一（JIM-NETスタッフ チョコ募金担当）

写真左：
チョコ募金担当齊藤と新作チョコ

イラクと福島の子どもたちを応援するチョコ募金。チョコ缶のデザインは前回大好評でした。「今回も素晴らしいデザインで日本の皆さんに元気を出して欲しい」とイラクの子供たちは頑張りましたのでご期待下さい。

チョコ缶の工程を管理されている会社の方も、印刷をされている会社の方も、製缶工場の方も、皆様へ発送を担当して頂いているはなみずきの方も、仕事を頂いて本当に有難いとおっしゃっておりました。この言葉はチョコ募金をして頂いている皆様に向けられた感謝の言葉だと思います。「本当に有難うございます。」

7月6日には、いつも缶の製作をお願いしている埼玉県草加市の製缶工場を訪問してきました。今年は一部自動化しました。印刷された鉄板から本体の部分が自動的に出来上がってきます。缶は、安全に精度の高いものが出来上がっております。試しに出来上がったばかりの缶の本体を抜き取って、蓋をしてみました。ピタッと締まり緩すぎず、又開けるのに無理な力はいりません。これならお年寄りの方も無理なく開けられ、運搬中に蓋が開く事ありません。
日本の職人さんはすごい。本当にすごい。
缶の蓋は未だ手動ですが近い内にこちらも自動化されると思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

皆様からお預かりしたチョコレート募金は経費を除いて残り全額を福島とイラクの支援に使わせて頂きます。

前回のチョコはお孫さんが生まれた祖母様の内祝の品・結婚式参列者へのお礼品・定年退職者の職場への感謝品・ご夫婦でお互いに申し込まれお互いにプレゼントされたご夫婦等　なんと奥の深いチョコレートなのでしょうか。また今年もどんな出会いが待っているのでしょうか？

今回のチョコ募金は前回より2万個増やし16万個を予定しております。この缶を積み上げると1,600m。エッ！あのスカイツリーより高い！（缶の厚みを1cmとして）

一抹の不安がありますが前回以上に頑張りますので、よろしくお願いいたします。

【イベント報告】 アルビル国際マラソンに参加しました！

大嶋 愛（JIM-NETスタッフ）

『平和と非暴力のためのアルビル国際マラソン』の2km部門に、アルビル駐在員の望田と2人で参加しました。イラクが暴力ではなく平和を求めていることを世界に発信しようというこの大会は、アルビルのNGOやクルド自治政府省庁などが主催しており、当日はたくさんの人！なんと5000人が参加したそうです。

治安は大丈夫なの？？と思われるかもしれませんが、北部のクルド自治区は落ち着いています。ショッピングモールも次々に完成し、ドバイからの飛行機も就航し、観光地化に向けて街がどんどん出来上がっているという印象でした。自然豊かで野菜も豊富ですし、肉や魚のケバブもどこの店も美味しいんですよ！

さて、マラソン大会は2km・10km・フルマラソンがあり、2km部門は子どもたちばかりで、大人が走るのは少し恥ずかしかったのですが、10月とはいえ天気が良ければ30℃近くまで上がるアルビルでは、暑さと乾燥と砂漠独特の埃っぽさにやられ、東京で普段走るよりも数倍大変でした。

スタート前に音楽がかかると、びっくりするほどの盛り上がり！公園の塀を乗り越えたり、ショートカットするのは当たり前！走り終わったあとは「もう一回、もう一回」という大コール！アルビルの人たちはみんな陽気で、お祭り気分を堪能することができました。

イラクでマラソン大会に参加でき、感慨深いものがありましたが、クルド自治区だけでなく、バグダッドやバスラなどの中心都市でいつか走りたい！という夢を新たに持つようになりました。早くイラクが落ち着きますように。その日に向けて練習しておきます！

写真右：
青空の下、たくさんの参加者が走る

写真左：
参加者と記念撮影
（左端：大嶋、
右から2番目：現地
スタッフ望田）

鎌田代表のつぶやき。。。

～イラクの子どもと福島の子どもを助けたい～

国際エネルギー機関が、20年後、イラクが産油大国になると発表した。もともと石油の埋蔵量は世界第2位と言われてきた。しかしイラク戦争後、油田の採油所が戦争で傷つき、十分な採油ができなくなった。現在、世界シェアで3%ほどである。徐々にイラク自身の産業復興が始められている。2020年までには7%、2035年までには9%まで増える見通しということだ。いずれの時点でも世界最大の伸びで、世界の増加分の半分近くをイラクが占めることになる。イラクの石油がたくさん採れることは、世界の石油の相場を抑えることになる。

しかし、イラクの人々の生活は、いまだに停電が続き、病院では薬が不足、病院にもけない貧困層を保護する福祉制度もない。だから、日本のNPOグループがイラクの子どもたちを助けていることが大事なのだ。

イラクの子どもたちの救援活動を始めて8年が過ぎた。JIM-NETでは、スタッフもアルビルに常駐させ、積極的な救援活動を行なっている。どんな国も自分たちの国が傷ついているとき、自分たちの国の子どもを守ってくれる支援は、忘れられない感謝につながる。

戦争で傷ついたイラクの子どもを助けたい、と純粋に思ってやってきたことであるが、同時に、ぼくたちの子どもたちを守る救援活動が、日本とイラクの信頼関係を築いてきたように思う。ぜひこのことをたくさんの人に理解していただき、イラクの子どもを救うこと、そして福島の子どもを救うこと、ほんの一部であるが、シリアの難民キャンプの支援もしていきたいと考えている。

今年もバレンタインのチョコレートの募金活動を行ないます。昨年に比べてさらに2万個増加しました。福島の子どもたちの支援も続けます。子どもたちを助けるために、ご支援をお願い致します。

みなさんがJIM-NETを応援してくださり、JIM-NETがイラクの子どもを救うことを通して、中東地域の信頼関係の構築に役立つと信じています。まだまだ20年は石油のエネルギーが世界で必要です。僕たちの支援しているイラクを中心に、シリアやイラン、パレスチナなどアラブ一体の地域が平和になることが、日本の生命線、石油をアラブから運んでくる上でも、とても大事です。イラク戦争のように、武力で石油を奪い、犠牲者を出してはいけません。

僕たちJIM-NETは、子どもたちの命を守る活動を通して、この地域に平和をもたらしたいと考えています。大きな構想のもとに、子どもたちを助けています。ぜひご理解いただき、JIM-NETへの熱い応援をよろしくお願いします。たくさんの人にツイッターやブログや口コミでお知らせしてください。

（2012年10月23日）

JIM-NET 現地新スタッフよりご挨拶

イラク・アルビル事務所に新しく着任致しました望田優子です。

私は2005年夏にヨルダンを旅行していた時に、当時ヨルダンで小児ガン・白血病のイラクの子どもたちの治療支援をしていたJIM-NETの活動と出会いました。バグダッドから車で10時間の道のりをかけて白血病の治療に来ていた子どもたち、「もっと早く治療を受けることができていればこんなに悪化しなかったのに・・・」と悔やんでいた患者のお母さん、そんな彼らの姿が心に残り、いつか支援に携わることができればという思いを持っていました。

今回アルビル事務所のスタッフとして子どもたちの支援に関われることにとてもうれしく思います。そして、これからなるべくたくさんイラク・アルビルの様子を伝えていけたらと思っています。よろしくお願いします。

【局長くん連載終了のお知らせ】

諸事情により「局長くん」の連載が打ち切りになりました。
局長くんよりひとこと、ごあいさつです。

世界の恒久平和を達成する為に、
地球に降り立ち、ジムネットだよりの
紙面を活動の場にしてまいりましたが、
力つきました。またどこかで皆さんに
お目にかかりたいです。
今まで応援ありがとう。さようなら

絵：高橋まりも

【編集後記】

寒さ到来とともにチョコ募金の季節となりました。皆さまの冬支度のひとつに加えていただけましたら幸いです。

JIM-NET便り 2012年11月号
発行：特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
発行日：2012年11月20日
〒171-0033
東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303
info-jim@jim-net.net
☎03-6228-0746